



利根川改修工事竣功式の

式辭と其の他

式辭

利根川改修工事成り本日茲ニ竣功式ヲ舉行スルニ當リ親シク大臣閣下竝ニ各位ノ臨場ヲ辱フシタルハ本官ノ尤モ光榮トスル所ナリ。

利根川ハ本邦第一ノ大河ニシテ流域一千方里灌漑十二萬町歩航路一百十里ニ達シ水利惠澤ノ及フ所廣且大實ニ全國河川ニ冠タリ然レトモ一度ヒ出水ノ大ナルモノアルヤ忽チ沃野ニ氾濫シテ水害ヲ逞フスルヲ常トシ其被害十四萬町歩ノ多キニ及フ之カ爲風ニ徳川幕府時代ヨリ治水ノ策ヲ講シ屢々河道ノ附替若クハ河身ノ改修ヲ行ヒタレトモ未タ完カラサルモアリキ降テ明治年間ニ至リ益々水災ノ度ヲ増シ人文ノ發達ト共ニ其被害ノ高愈大ナルニ至リタルヲ以テ政府ハ遂ニ明治三十三年度ヨリ一貫セル計畫ノ下ニ利根川全川及江戸川、中川ヲ通シ延長七十一里ニ亘ル規模頗ル宏大ナル改修工事ヲ起シ爾來三十有一年ノ久シキ歲月ト工費六千三百餘萬圓トヲ費シ茲ニ本邦前古無比ナル利根川改修工事ヲ完成スルニ至リタリ惟フニ歷世ニ亘リ難事業トセラレタル本改修ニハ幾多文明ノ利器ノ恩惠ニ依ルモノ多シト雖モ又國及關係府縣ノ絶大ナル資カト沿岸民諸氏ノ援助鞭撻ト多數從務員ノ堅忍不拔ノ努力トノ集合ノ結果ニ外ナラス今マ曩ニ竣功セル渡良瀬川改修工事ト相俟テ關東平野ノ大部ハ將來永ク水害ノ禍根ヲ絶ツニ至ルヘク邦家ノ爲洵ニ慶賀ノ至ニ堪ヘサルナリ

然レトモ尙維持工事ハ之ヲ一日モ忽ニスヘ

カラサルモノアリ希ハクハ關係地方ノ諸賢維持補修工事ノ續行ニ協力セラレテ此大業ノ効果ヲ完フセン事ヲ。

昭和五年十月十五日

内務省東京土木出張所長 眞田 秀吉
内務技師 工學博士

工事報告

利根川改修工事ハ明治三十三年度ノ起工ニシテ専ラ高水防禦ヲ目的トシ當初千葉縣佐原町以下海ニ至ル十一里間ヲ第一期工事トシテ着手シ同時ニ上流埼玉縣妻沼町迄ノ區間ニ低水工事ヲ起シ第一期工事ハ同四十二年度ニ至リ一旦竣功シタリ之レヨリ先キ同四十年年度ヨリ佐原取手間十三里ノ區域ヲ第二期工事トシテ著工シ次デ同四十二年度ヨリハ更ニ其上流群馬縣佐波郡沼ノ上迄ノ二十七里間ヲ第三期工事トシテ順次起工セリ、次ニ江戸川ハ同四十四年度ヨリ同川十五里ノ間ヲ追加施工シ更ニ大正五年度ヨリ中川筋六里間ノ改修ヲナスコト、ナリタリ、斯クシテ本派川合計七十二里ノ改修工事ハ之ヲ數區ニ分チ各改修事務所及機械工場ヲ設ケ各々數十ノ現場見張所ヲ統轄シ以テ銳意其ノ工ニ當レリ。

本川ノ計畫高水量ハ上流ニアリテハ毎秒二十萬立方尺トシ内八萬立方尺ヲ江戸川ニ分派シ關宿三ツ堀間ノ本川ハ十二萬立方尺トシ茲ニ鬼怒川ヨリ三萬五千立方尺ノ合流ヲ容レ夫ヨリ下流ヲ十五萬五千立方尺ト定メ勾配ニ應ジ夫々所要ノ河積ヲ與ヘ洪水ノ疏通ヲ計ルコト、シタリ、即チ河幅ハ本川筋ハ上下ヲ通ジ三百間ト定メタレドモ上流八里ノ間ハ五百間トシテ本支川洪水ノ合流殺到ニ供ヘ佐原以下三百間乃至五百間トシ江戸川ハ百四十間乃至二百二十間ト定メ中川ハ五十六間乃至八十間トナシタリ。

今改修施工ノ狀ヲ辿ルニ上流群馬縣八斗島附近ニテハ支川烏川合流ノ激衝ヲ緩和スル爲メ河道ヲ擴ゲ且ツ脊割堤ヲ設ケタリ、次ニ島村及前小屋一帶流狀ノ錯綜セル箇所ニハ新川ヲ開鑿シ中瀬、明戸、秦村附近ノ無堤氾濫地ニハ孰レモ新堤ヲ築造シテ古來ノ水論ヲ絶チ福川吐口ニハ樋門ヲ設ケテ逆流ノ氾濫ヲ防止

シタリ、支川渡良瀬川ハ其新設セル一大遊水地ニヨリテ自ラ洪水調節ヲナシ本川計畫流量ニ影響ナカラシメタリ、又栗橋町以下ノ赤堀川ヲ擴張シテ木流トナシ權現堂川ハ之ヲ締切リ此處ニ樋門ヲ設ケテ下流用水ノ便ニ供シ木野崎ノ狹窄屈曲部ニハ新ニ千三百間ノ直路ヲ開鑿シテ水路ヲ改メ鬼怒川ハ新川ヲ野木崎ニ開キテ其吐口ヲ引下ゲタリ三ツ堀ヨリ取手ニ至ル三里ノ間ハ河幅廣濶千八百間ニ及ブ野地ナルガ此區間ハ斷續セル山付堤防ヲ其儘擴張シテ在來ノ遊水能力ヲ減少セシメザルコトトセリ下流ニアリテハ支川小貝川ハ吐口ヨリ常盤線鐵橋ニ至ル二里ノ區間ヲ改修シ布佐、布川狹窄部ハ浚渫ヲ加ヘテ河積ヲ補ヒ又河身ノ迂曲甚ダシキ井野、生板、滑川、東大戸ニハ夫々直路ヲ開鑿シ此合計延長五千五百間ニ及ベリ派川將監川ハ閉塞シテ廢川トナシ且ツ印旛沼ハ其吐口ヲ締切リテ水門ヲ設ケ逆流ヲ防禦シタリ同水門ハ巾三十尺二連ノ煉瓦張混凝土造テシテ合掌銅扉ヲ備ヘタリ横利根川ハ之ヲ締切リテ閘門ヲ設ケ洪水ノ霞浦氾濫ヲ防止シ且ツ船船ノ航通ヲ安全自由ナラシメタリ、其構造ハ煉瓦張混凝土ニシテ有効幅員三十六尺長三百尺銅製ノ合掌複扉ヲ具ヘシメタリ、又佐原町小野川口ニハ逆水門ヲ設ケ之ニ架スルニ本邦最初ノ鋼製跳開橋ヲ以テシ舟航ニ便セリ、大倉橋間ハ從來無堤氾濫部ニシテ河道迂餘曲折折カモ入海ノ如キ箇所ナリシガ此處ニ延長四里ノ直路ヲ開鑿シ兩岸ニ新堤ヲ築造シ舊北濠筋モ亦タ浚渫ヲ加ヘ以テ霞浦北浦一帶ノ水位低下ヲ計リタリ。

關宿地先江戸川分流口ニハ新川ヲ鑿テ其流頭ニ高水路及水堰ヲ設ケ以テ高水量ノ調節ト共ニ低水量ノ節制ヲ全タカラシメ其一隅ニ閘門ヲ設ケテ水運ノ便ニ供セリ水堰ハ幅二五尺八連閘門ハ幅三十尺長二百尺トシ孰レモ本體混凝土扉鋼製ニシテ井筒五十八箇ヲ沈設シテ基礎トナシタリ、斯クシテ舊幕時代ヨリ名高キ關宿棒出ハ流頭設備ノ完成ト共ニ之ヲ撤去シタリ、下流行徳町ニハ延長千八百間ノ新放水路ヲ開鑿シテ洪水ノ疏通ヲ計レリ。

中川ハ庄内古川ヲ江戸川ヨリ分離セシメテ

之ヲ取入レ松伏領吉川間ニ延長七百間ノ新川ヲ開キ又潮止ノ屈曲部ニハ直通ノ新河道ヲ設ケ以テ沿岸諸惡水ノ排除ニ資セリ、庄内古川ハ中川ノ附帶工事トシテ羽生領、島中領、五霞村ノ諸惡水ヲ併セ權現堂川廢川敷ヲ經テ吉田村ヨリ堤内ニ入り以下低地及舊水路ヲ開鑿擴張シ松伏領ニテ中川ニ注入セシメタリ、此改修延長實ニ八里餘ニ達セリ。

以上全川ヲ通算スルニ本改修工事ノ爲メ土地ノ買收セシ反別六千六百三十餘町歩使役セシ延人數二千七百四十一萬人、使用器械ノ主ナルモノハ掘鑿機十八臺、機關車二十三臺、浚渫船十七隻、曳船七隻、土運船五百二十四隻、各種帆條三百五十五哩、土運車七千二百五十臺等ニシテ堤防ハ馬踏三間乃至四間トシ其延長百三十一里土量一千二百二十四萬立坪、掘鑿浚渫土量二千二萬立坪、護岸水制延長十萬五千間、閘門二箇所、水堰一箇所、水門及樋門九箇所、附帶補助工事樋管及水路二百五十一箇所ヲ築設シ其工費合計六千三百四十萬餘圓ヲ要シ明治三十三年度起工セシヨリ昭和五年度竣功ニ至ル迄實ニ三十有一ヶ年ノ工期ヲ閲シタルナリ。

終リニ臨ミ起工以來東京土木出張所長日下部、近藤、中原、中川、眞田各博士ノ指揮監督ヲ辱ウシタルニ對シ亦タ沿岸官民各位ノ協力援助ヲ賜ハリタルニ對シ更ニ多數從務員諸氏ノ奮闘努力トニ對シ茲ニ深甚ノ感謝ヲ捧グルモノナリ

昭和五年十月十五日

内務省東京土木出張所

利根川第二期改修事務所主任兼

利根川第三期改修事務所主任

内務技師 阿部清紀

挨拶

利根川改修工事カ完成致シマシテ本日竣功式ヲ舉ゲル事ニナリマシタノハ誠ニ御同慶ノ至リニ堪エナイ次第デアリマス。本川ノ改修ハ我邦最大ノ治水事業デアリマシテ關係區域ハ實ニ關東六府縣ニ及ヒ其延長七十里ノ河筋カラ掘鑿シタ土量ハ二千萬坪其延長百三十里ニ亘ル堤防ノ土量亦一千万坪ニ達スル大土工

テアリマス。

此大事業カ明治三十三年ニ起工サレマシテ以來關係府縣ノ當局及沿岸各町村ノ熱誠ナル協カト従業員二千八百萬人ノ多大ナル努力トニヨリマシテ茲ニ目出度完成スル事ガ出來關東ノ大平野カ之ニ依テ水害ヲ免レ産業ノ開發ヲ促進スル上ニ効果ノ極メテ大ナルモノアルコトハ茲ニ申ス迄モナイコトテアリマス。

私ハ起工以來三十年間此工事を從事シタ一人トシテ今日ノ盛事ニ遭ヒマシタコトハ一層深イ歡快ヲ覺ユル者テアリマス。

此機會ニ於テ今後更ニ維持修繕ニ努メラレ長ヘニ改修ノ効果ヲ完フセラレムコトヲ切望シテ已マヌ次第テアリマス。御祝詞ヲ兼ネ一言御挨拶ヲ申上マス。

昭和五年十月十五日

内務技監 中川吉造

告 辭

河川ヲ修治シテ洪水ノ災禍ヲ除キ灌漑舟運ノ利ヲ進メテ地方産業發達ニ資スルハ國家民人ノ福祉ヲ増進スル所以ニシテ事最モ緊切ノ要務タリ政府夙ニ意ヲ此ニ致シ明治ノ初全國十四大河川ヲ選擇シテ直轄ノ下ニ改修工事を施行セル亦宜ナリト謂フベシ本川ハ實ニ其一ニシテ明治八年初メテ低水工事を起シ以テ航行ノ利便ト産業ノ開發トニ資スル所アリ而カモ歲次水患相踵テ臻リ其ノ損害巨額ニ及フノ狀況ニ鑑ミ更ニ高水工事を計畫ヲ樹立シ明治三十三年第一期改修工事を着手シ爾來或ハ洪水ノ防禦ニ或ハ河身ノ改良ニ或ハ河川利用ノ改善ニ累次計畫ヲ擴張シテ本川五十餘里ヲ一貫シ更ニ支川江戸川、中川ヲ併セ施行スルニ至リ前後通シテ實ニ五十有六年ノ歲月ト六千餘萬圓ノ工費トヲ費シ今乃チ其完成ヲ見ル念フニ今後沿岸十四萬町歩ノ洪水被害ノ地方積年ノ困厄トヲ免レ得ルノミナラス將來産業ノ發展期シテ待ツヘキモノアルハ洵ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ庶幾ハ關係地方一致協力能ク河川ノ維持擁護ニ努メ本事業ノ目的ヲ永遠ニ保持スルト共ニ進シテ河川利用ノ方途ヲ講シ以テ地方ノ發展ト國富ノ増進トニ資セラレンコトヲ一言所懷ヲ述テ告辭トス

昭和五年十月十五日

内務大臣 安達謙藏

祝 辭

利根川改修工事完成ヲ告ゲ本日茲ニ竣工式ヲ舉行セララルニ際シ一言ヲ呈スルハ予ノ欣幸トスル所ナリ。

惟フニ河川ノ國民生活ニ及ボス其ノ利便ヤ頗ル多大ナルモノアリト雖モ洪水汎濫ノ災禍亦測ルベカラザルモノアリ

古來治水ヲ以テ治國ノ要道ト爲セルモノ蓋シ故ナキニアラザルナリ。利根川ノ改修ハ其ノ施行ノ區域極メテ廣汎ニ亘リ規模ノ雄大ニシテ工費ノ巨額ナルコト實ニ我國治水事業ノ第一位ニアリ。今ヤ其ノ工成リ五府縣沿岸ノ沃野十四萬町歩ハ今後永ニ水殃ヲ絶ツト共ニ水利關係ノ一新ハ茲ニ文化諸施設ノ基礎ヲ爲シ以テ健實ナル産業ノ進展ヲ期シ得ベク其ノ効果ノ及ブ所極メテ大ナルモノアルハ邦家ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘザル所ナリ。茲ニ本事業ノ遂行ニ對シ深く關係地方ノ協カヲ多トシ併セテ此ノ機會ニ於テ將來益々之ガ維持管理ニ力ヲ致シ以テ本事業ノ成果ヲ完カラシメンコトヲ望ム。乃チ一言ヲ述ベテ祝辭ト爲ス。

昭和五年十月十五日

内閣總理大臣 濱口雄幸

利根川の五博士

利根川の大工事は技術家中に多くの人材を産した、即ち此の工事關係者にして先づ第一に眞田秀吉氏は『土工特に軌條運搬に就て』の博士論文に依つて土工設備の能率を改善し、中川吉造氏は『横利根閘門に就て』の博士論文に蘊蓄を傾けられ、金森誠之氏は『煉瓦積の研究特に其補強に關する研究』の博士論文に於て音響學と寫眞映畫等の利用により藝術的方面に土木工學の境地を擴め、鈴木雅次氏は『堤防暗渠の構造に就て』の博士論文に依つて獨創の研究を遂げ、宮本武之輔氏は『混凝土及鐵筋混凝土扭力試験』の博士論文に依つて斯界に多大の貢獻をなしたのである。以上五氏のうち金森、鈴木、宮本の三博士は何れも青年期にある新進の技術家で、三氏とも殆んど相前後して學位を得たと云ふても良い位に世間の記憶に新しい人々である。